

西濃農林事務所の普及活動状況

平成26年11月27日現在

今月の重点活動

■担い手育成 **関ヶ原町山中営農組合意見交換会支援（集落営農システムサポート事業）**

11月5日に第2回集落営農塾を開催し、同日夜に楠本講師を招いて山中営農組合役員の見意見交換会を開催した。

営農組合長から、地区の耕作面積は10ha程度と小規模であり、経営試算では収支が赤字になるなどの問題点が出された。楠本先生からは、「農地を維持するための方法として集落営農があり、人や地域の結びつきを考えていくことが大切」、「山中地区よりも条件の悪い島根県の集落でも法人化し、経営も安定している事例がある」、「女性や若者など幅広い意見を取り入れていくべき」などが提案され、山中地区でもさまざまな取組方法を追求していただける可能性が示された。山中地区は営農組合法人化の方向へ向かっているが、今後の取組方法について検討会を設けるなどの支援を行って行く。



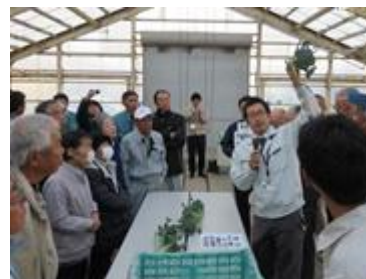
【意見交換の様子】

活力ある新産地づくり

■ブロッコリー **ブロッコリー目揃会の開催**

10月下旬からブロッコリーの出荷が始まり、各部会・地域で目揃会が開催された。今年は台風の接近はあったが大きな被害もなく生育は順調であり、大垣部会の11月中旬までの出荷量は昨年の1.5倍となっている。

農業普及課からブロッコリーの生育状況、今後の防除等栽培管理及び収穫見込みについて説明を行った。その後、調整前のブロッコリーを用いて、出荷調整の仕方や等級区別について全農及び農協担当者から説明があった。今年は各地域で新規取組農家があり、参加者は熱心に説明を聞いていた。



【大垣部会目揃会の様子】

売れる農畜産物づくり

■大豆 **大豆安定生産の推進**

<大豆現地検討会>

11月19日にJAにしみの主催で「大豆現地検討会」が開催された。生産者と関係機関担当者約130人が集まった。午前中はJAにしみの本店で室内検討を行い、普及課からは大豆の生育状況について説明し、適期収穫による品質の確保を指導した。午後はバスに乗り合わせ海津と養老の現地を巡回視察し、摘芯栽培の効果を確認した。

今年の大豆は、播種が早いほ場では10月中旬に葉の黄化が始まり成熟期も早めとなったことより11月21日から収穫開始となっている。

全般的に台風の大雨・冠水による根腐れや、開花期前後の8月上旬～9月上旬の天候不順（低温・多雨・日照不足）の影響から着莢数が少なめとなっている。また、湿害による生育不良がでているほ場もあり、収量は平年を下回る見込みである。



【摘心栽培現地研修】

■いちご **若手の会ほ場巡回を開催**

11月14日よりいちごの出荷が始まった。花芽分化は昨年並みに早かったが、定植後の乾燥や低温により葉の展開が遅れたことより、昨年よりも1週間ほど出荷が遅れている。11月13日、14日に海津いちご部会において、支部ごとにはほ場巡回研究会を開催し、生産者全員で各自のほ場を確認して、栽培管理の進捗状況や出荷見込みを確認しあつた。農業普及課より、今後の管理や病虫害防除について説明を行った。

■神戸下宮グリーンアイ出荷組織 **グリーンアイGAPの外部監査**

10月24日にグリーンアイGAPの外部監査が実施された。イオンから委託された検査機関「SGSジャパン」の監査員が書類の整備状況や生産者の作業場、ハウスなどについてグローバルGAP基準に準じた適正な管理がされているか監査された。農業普及課は外部監査の受検を支援した。

■さといも **目揃会の開催**

11月19日に大垣さといも部会目揃え会が開催された。普及課から収穫・貯蔵についての留意点、種イモの確保方法及び芽つぶれ等の被害いもの要因などについて資料により説明を行った。市場担当者から選別基準について部会員が持ち寄ったさといもを用いて説明がなされた。部会では収穫されたいものの中で丸いものだけを選別し、「里丸」のネーミングで販売してブランド化を図っている。昨年「里丸」シールを部会で作成し、更に差別化を図っている。



【目揃え会の様子】

戦略的な流通・販売

■安八町農産物加工運営委員会 **新商品販売開始**

安八町農産物加工運営委員会薬草部会がかねてより試作検討を行っていた新商品3品の販売を10月下旬から開始した。安八町特産の梅を使い、大垣桜高校から開発のレシピ提案を受けた「うめ〜クッキー」、ほうれん草をいれた「ほうれん草シフォンケーキ」の2品は、町の産業祭にて販売し好評を得た。また、従来からのハーブケーキを、ほうれん草でアレンジした「野菜ケーキ」は、クッキー、シフォンケーキとともに新聞掲載したところ、注文が入り販売することになった。

県民みんなで育む農業・農村

■特定外来生物 **アレチウリの拡大被害啓発**

大垣市のJR東海道線そばの大豆ほ場で特定外来生物で難防除雑草の「アレチウリ」が確認された。「アレチウリ」は北米原産ウリ科の帰化植物で、繁殖力が非常に強いため一旦繁茂すると根絶が困難となる。今回、JR東海敷地内にも繁茂していたが、通報により除草作業が実施された。普及課は大豆ほ場におけるアレチウリを含めた外来植物の雑草調査を実施するとともに、農協広報誌「じゃん!」等を通じて「アレチウリ」除草について呼びかけている。



【線路脇のアレチウリ】